



## 新年を迎えて



一般財団法人日本 ITU 協会  
理事長

おがさわら みちあき  
小笠原 倫明

新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨年は、ITU-D（電気通信開発部門）が25周年を迎え、10月に同部門の総会にあたる世界電気通信開発会議（World Telecommunication Development Conference: WTDC-17）がアルゼンチン（ブエノスアイレス）で開催されました。同部門の次会期（2018年-2021年）における行動計画として、国連並びにITUが掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」達成のため、電気通信/ICTインフラ、アプリケーション、サービスの拡大と利用を加速することが宣言されたところです。

引き続き、本年秋には、ITUにとって最も重要な会合である全権委員会議（Plenipotentiary Conference）が、アラブ首長国連邦・ドバイで開催されます。ここで我が国は理事国として再選を目指すとともに、無線通信規則委員会（RRB）の委員として橋本明氏の当選を目指しています。当協会は、本年も、こうした全権委員会議など重要会合に関する情報の収集や賛助会員の皆様への展開、日本代表団の支援等に微力ながら尽力していく所存です。

また、アジア・太平洋電気通信共同体（Asia-Pacific Telecommunity: APT）では、昨秋の総会で、タイのアリーワン・ハオランシー氏が事務局長として、我が国の近藤勝則氏が事務局次長として再選されました。申し上げるまでもなく、アジア・太平洋地域の発展は世界経済全体を牽引するものであり、APTの役割も今後一層重要となります。

昨年12月、当協会がAPTに提案した“Development of Practical Problem-solving Skills: Network Construction or E-application in Regional Community to Bridge the

Digital Divide”という研修プログラムは、APT主催の人材育成支援の一環として、加盟国向けの研修として採用されました。当協会は、今後もこうした活動などを通じて、日本政府、賛助会員の皆様とともにAPTの諸活動を支援してまいります。

さらに、当協会は、「ITUジャーナル」誌や英文誌「New Breeze」で我が国における様々なICT活用事例や5Gモバイル通信をはじめとする新技術を紹介してまいりました。本年も人工知能（AI）、環境・医療面でのICT活用など皆様の関心の高い分野の情報を引き続き提供してまいりたいと考えています。皆様からのご要望もお寄せいただければ幸いです。

最後に、本年が皆様にとって実り多き年となりますようお祈り申し上げ、ご挨拶いたします。



写真 WTDC-17会合模様